対話と学びあいで、変えていく 働く者が主役の新しい年にしよう

大阪労連　議長　福岡　泰治

新春宣伝で訴える福岡議長

新年あけましておめでとうございます。年末年始も勤務された皆さん大変ご苦労様でした。2026年、私たちを取り巻く社会情勢は、大きな転換点を迎えています。

昨年の参議院選挙では自公を過半数割れに追い込みました。同時に排外主義・移民排斥の拡大とファシスト政党の台頭で日本の政治体制に大きな変化が起きています。公明党が26年ぶりに政権離脱しましたが、日本維新の会の助けを受け高市政権が誕生しました。これまでのどの政権よりもアメリカ言いなりに大軍拡を行い、過去の政権が維持してきたルールさえ無視する「戦争する国づくり」への暴走を続けています。

物価高騰は長期化し、賃上げが行われても実質賃金はマイナスを続けています。労働法制の改悪も正念場を迎えます。社会保障の負担増、公共サービスの後退などが、暮らしの不安をさらに広げています。こうした問題の背景には、労働や生活よりも効率や利益を優先する政治や社会のあり方があります。

政治は決して遠い存在ではありません。最低賃金の水準、労働時間規制、非正規雇用の処遇、ハラスメント対策、社会保障や税のあり方など、私たちの働き方と暮らしは、政治の決定によって大きく左右されています。声をあげなければ、働く者の存在は置き去りにされてしまいます。だからこそ、労働組合が社会に対して発言し、行動する意義はますます高まっています。

本年は、春闘を軸に、実質賃金の引き上げと労働条件の底上げをめざす重要な一年となります。正規・非正規、若者からベテランまで、働き方や立場の違いを超えて、「誰一人取り残さない」運動を広げていくことが求められています。そのためにも、職場での対話と学びあいを大切にし、小さな声や悩みを見逃さず、要求として束ねていく組合づくりを進めていきましょう。

分断と競争をあおる社会の流れに抗し、連帯と協力を力に変えることこそ、労働組合の原点です。働く者のいのちと健康、そして尊厳を守り、安心して働き続けられる社会を次の世代につないでいくために、今年も皆さん、ともに奮闘しましょう。

組織交流集会

対話と学び合い 実践講座

12月6日、大阪労連は組織交流会「対話と学び合い実践講座」を開催しました。これは、全労連の提唱する「対話と学び合い」を実践し、仲間づくり・組織づくりを進めるために「対話」の意義を確認し、実践と学び合いを通じて効果的な「対話」について考えてみようと企画されたものです。

府職労の小松委員長が講師になり、少人数グループに分かれ、実際に職場での対話をどのように進めていくかを、ワークシートに沿って説明を受けながらとりくみました。

最初に、グランドルール（安心して対話と学びあいを深められる場にするための約束ごと）を決めて、チェックイン（自己紹介など）を行いました。

次に「自分たちにとって労働組合ってどんな存在なのか、何を大切に思って活動しているのかを言葉にしよう」と小松さんの提案を受けて、自分で対話のストーリーを考えグループの中で話してみることになりました。2分間でまとめることに悪戦苦闘しながらも、楽しく対話の実践を練習することが出来ました。最後に「新採歓迎のとりくみについて」職場などで工夫していることなどの話をしました。参加者から「対話することの難しさ、その工夫、できることがまだあると思った」「対話のトレーニングが必要だなと思った」などの感想が寄せられました。

大私教・箕面学園分会

闘ってなかまが増えて 要求が前進！

大私教の組合がある箕面学園では、学園側との闘いの中で組合員の加入が広がっています。

箕面学園の安延分会長に話を聞きました。2年前に現在の校長になってから、校長を含めた管理職からのパワハラが横行するようになりました。また、それまで箕面学園は学力に苦しむ生徒へも手厚く対応し、地域の方に慕われる学校でしたが、校長を含む理事会からのトップダウンで進学校路線に変えると言って学校改革を強行しました。そのため、受験生が減り、生徒数も減ってきました。

労働者代表よりパワハラの数々を訴えても相手にされませんでした。また、夏の一時金は1・8か月支給されましたが、冬の一時金は0・2か月の回答が10月上旬に学園側から組合にありました。早急に要求書提出と同時に団体交渉を申し入れました。交渉前の職場集会で「労働組合でしか覆せない」と呼びかけたところ8人が加入しました。10月29日、箕面学園分会から28人、大私教本部及び加盟組織から28人が参加して団体交渉を行い、交渉後に1・8か月の回答がありました。しかし、組合側はあくまでも通年通りの2・1か月を要求。その後、豊能地区協議会や箕面労連からの支援も受け、交渉を重ねました。11月10日に学園側から組合に2・1か月の回答があり、一時金については妥結しました。

また、パワハラの相談など組合の信頼から2人が加入しました。

安延分会長は「職場に組合の意義を伝え闘った結果、仲間が増え嬉しく闘いの励みになった。現在、校長などの管理職からのパワハラについて交渉中、スト権を構えて闘い正常な学園に戻したい。引き続き、仲間も増やしていきたい」と力強く語られました。

レバカレ参加者交流会&報告会

話し合いの手法学び 組織強化へ

12月16日、大阪労連は、10月11日から13日にかけて全労連主催で行われたレイバーユニオンカレッジ（通称：レバカレ）の参加者交流会&報告会を開催しました。

最初にグランドルールを決め、前半は、少人数グループにわかれて「レバカレに参加した感想」と「（レバカレで）自分の組織でもやってみたいと思ったこと」の2つのテーマで討論しました。後半は、「やってみよう！OST（オープンスペーステクノロジー）」を行いました。OSTとは、テーマに賛同する参加者が自発的に集まって対話し、参加者で作り上げていくことを重視した話し合いの手法です。今回は「労働組合の魅力を語りたい」「職場の仲間を組合に誘いたい」など4つのテーマが出され、自分のグループに参加して討論しました。

参加者からは、「レバカレの楽しさがわかった」「参加出来なかった分科会の話まで聞けてよかった」「また、レバカレが開催されたら参加したいと思った」「職場でもOSTを取り入れ組織強化につなげていきたい」などの感想が寄せられました。

ろーれんフラッシュ

北河内地区協議会「松元ヒロ ソロライブⅡ」開催 涙もあり、会場300人大笑い、歓声やまず！

11月28日、北河内地区協議会は「松元ヒロがあなたにおくるソロライブⅡ」を開催しました。政府を風刺したり、戦争や憲法の話などで、会場中笑いと歓声が沸き、涙と学びありの楽しい一時でした。300人余りの方が参加して大盛況となりました。

民間部会 第35回定期総会を開催

大阪労連民間部会は、12月10日に第35回定期総会を開催し、方針と新体制を確立しました。また、秋季年末闘争のたたかいを交流し、「物価高騰を上回る賃上げ」を軸に、26春闘勝利、「対話と学びあいの実践で仲間づくりを」と意思統一しました。

大阪市地区協議会 2026年春闘学習&団結望年会を開催

12月12日、大阪市地区協議会は2026年春闘学習&団結望年会を開催し、情勢学習や大阪市への予算要望についての報告など行いました。予算要望では、教育や保育など大阪市の子どもたちへの冷たい政策が浮き彫りになり、要求の切実さを強く感じました。

三四労の会　年末学習交流会

12月15日、大阪労連三四労の会は第22回年末学習交流会を開催、福保労の寺田書記長を講師に「その転職、ほんまにええの!?今こそ組合の出番！」をテーマに学習しました。その後の懇親会で交流を深めました。

国労大阪会館を
研修・学習会などにご利用ください
JR・天満駅　地下鉄・扇町駅 下車スグ
◆身障者用昇降機設置
お申し込みは ☎06（6354）0661
〒530-0034　大阪市北区錦町2－2